

# 世界最高のユニバーサルデザインですべての人がイベントを「楽しめる場」を実現します

世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設とするための具体的方策

世界最高のユニバーサルデザイン(UD)とは身体的な負荷を軽減するだけでなく、「迷い」や「不安」といった精神的な負荷を軽減することが共に重要であると考えます。からだへの負担とこころへの負担の両方を施設全体で最小化することこそ、世界最高のUDを目指すスタジアムの在り方だと考えます。そのために、関係者は「UDの7原則」※1の思想を共有し、国内外の各種基準、IPCガイドラインを遵守することで、すべての人が安心・安全・快適に競技・観戦できるスタジアムを実現します。

※1ユニバーサルデザインの7原則(ロン・メイス博士により提唱)

- 誰もが公平に利用できること
- 使う上で自由度が高いこと
- 使い方が簡単ですぐ分かること
- 必要な情報がすぐに理解できること
- 危険につながらないデザインであること
- 効率よく疲れないで使えるようにすること
- アクセス、操作しやすいスペースや大きさにすること

※2 International Paralympic Committee

## 具体的な取り組みの要点

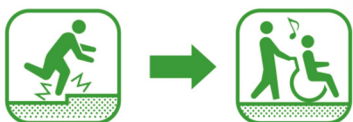
- 地域全体で取り組むUD
- 単純明快の分かりやすさを徹底
- 細部に至る配慮と心遣い
- 競技するためのUD
- 安心安全と使いやすさへの配慮
- みんなのためのUDを実現させるワークショップ

## 1 身体的・精神的な負荷を軽減し、心の余裕と「楽しみ」を生み出す工夫

地域全体でUDに取り組みます

### 単純明快な移動経路

段差のない移動経路によって車いす使用者や高齢者、視・聴覚障がい者の円滑な移動を実現します。



### 移動が楽しくなる工夫

移動経路に休憩できるベンチを多く設置するほか、歩くことが楽しくなるよう、舗装材をはじめ景観・照明・色彩に配慮します。

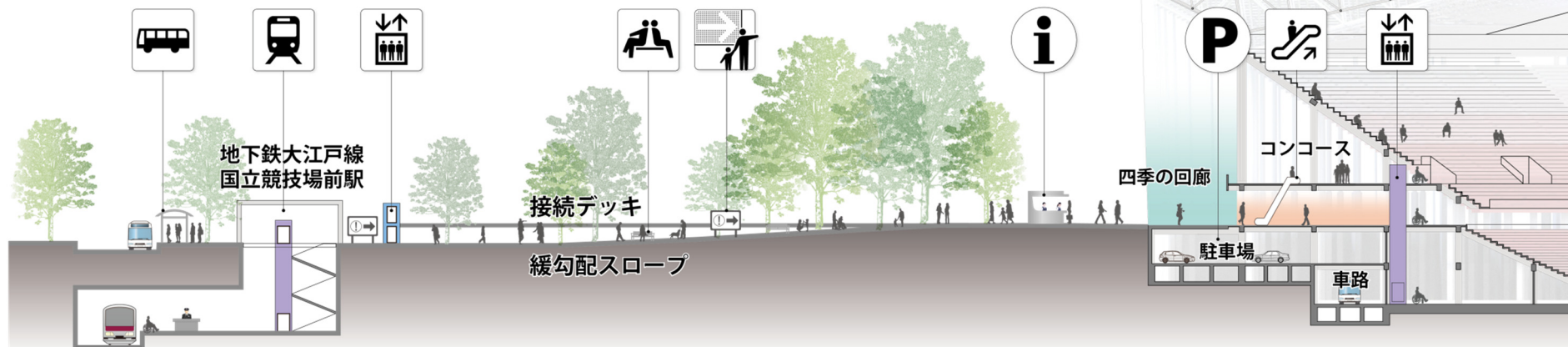


### 迷いをなくす案内コーナー

移動経路にインフォメーションを設置し、みんなが迷わずアクセスできるようにします。



- エレベーター
- インフォメーション
- ベンチ
- 駅



### 1. 訪れる

**電車・バス**  
交通機関からのバリアフリー動線を確認し、競技場内へスムーズなアクセスを実現

**駐車場**  
車いすリフト付き車両、マイクロバス、サイド乗降式車両、競技用車いす使用者の車両、送迎バスなど多様な車両に対応

**ピクトグラム**  
多言語に配慮し、情報の理解促進を図るためISO基準との比較表を作成

### 2. 公園を抜ける

**大型案内板**  
多方面からのアクセスに対し適宜大型の案内板を設置し位置の認識に配慮

**ベンチ**  
敷地内に休憩スペースを適宜設け、休みながらの移動ができるよう配慮

**段差のないアプローチ**  
敷地内はスロープによりレベル差を解消し、移動しやすさに配慮

### 3. 尋ねる、案内する

**総合案内所**  
インフォメーションなどをエントランス付近など分かりやすい位置に設置

**ボランティアの配置**  
おもてなしスタッフを適所に配置し、人員誘導や道案内など人材サポート

**小型受信機の貸出し**  
FM発信により、多言語マルチチャンネル・音声案内などに対応

### 4. 館内を移動する

**エレベーター**  
主要EVの定員は26人以上とし、ボタンは浮出文字や色で分かりやすさを追求、かご内から防災センターと双方向通信ができる機能を付置

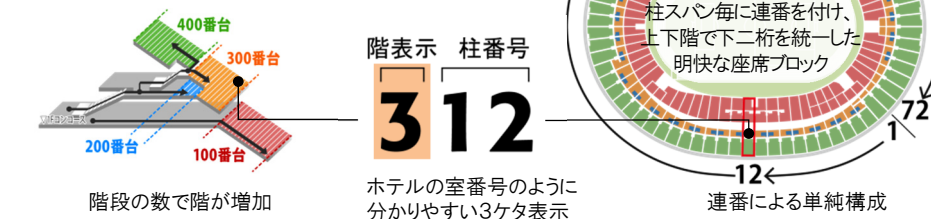
**エスカレーター**  
4枚程度の乗入ステップとし、要所に運行状況表示を設置

**音声誘導案内システム**  
視覚障がい者や外国人に配慮し設置

## 2 二者択一の単純明快な構成で「迷い」「不安」を排除し、移動プロセスにおけるストレスを最小化

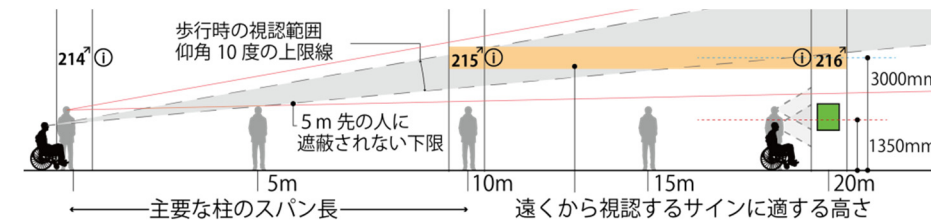
### ① 単純明快な座席の住所表示

ブロック番号は3ケタの数値とし、連番付けで方向が直感的に理解できる計画とします。



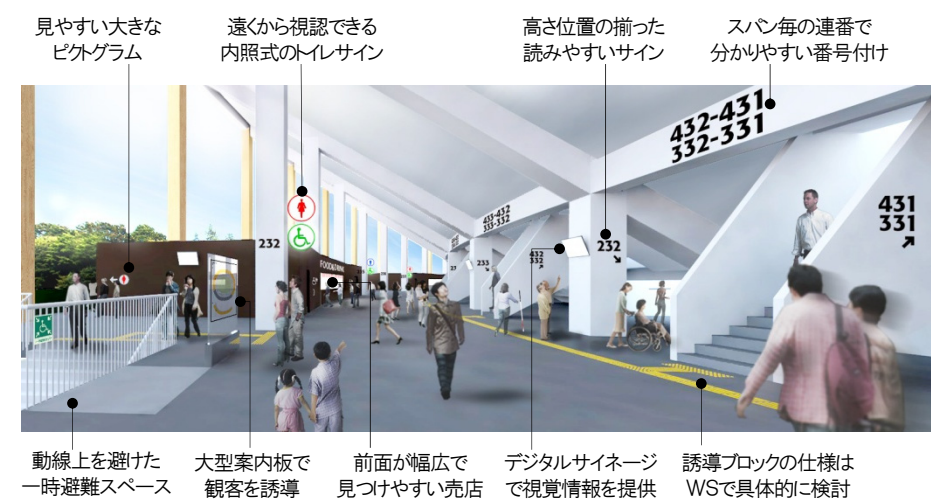
### ② 距離に応じた最適高さを設定した見やすいサイン

混雑時、車いす使用者等を考慮し、視認性に優れた設置位置とします。  
サインはユニバーサルカラー(CUD)に配慮したサイン計画・色彩計画とします。



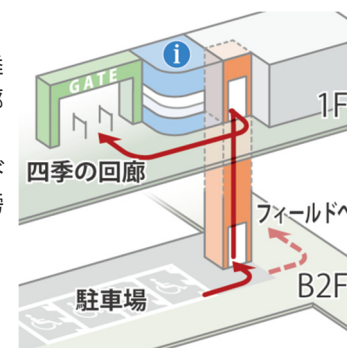
### ③ 情報の混合を避けたルールづくり

遠くから見るべきサインと近くで見るべきイベント掲示物との設置高さを分け、提供する情報に明確なルール付けを行います。



### ④ 安心して直結する円滑な車両アクセス経路

障がい者用駐車場は、B2階のエレベーターに隣接して十分な数を確保します。1階の四季の回廊にもスムーズなアクセスが可能です。  
競技者が乗降する停車スペースからはフィールドにスムーズにアクセスでき、アクセスルートの近傍に更衣室やシャワー室を設けます。





# 「縁の下」のユニバーサルデザインによって移動・観戦・競技の自由を支えます

世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設とするための具体的方策

## 3 スポーツを通じてすべての人が生きがいを感じる集いの場の実現

### ① 仮設部分も含めて、細部に配慮した心づかいで、すべての人が使いやすいスタジアムとします

#### 1) 車いすでもよく見える席・同伴者席

・前の人が立ち上がった後もC値60を確保します。

#### 2) 安心環境を提供するボックス席

・2階、3階に音環境に配慮したガラスパーティション席を設けます。知的障がい・発達障がいの他、子供連れやファミリーも利用しやすい座席です。

#### 3) イージーアクセス席

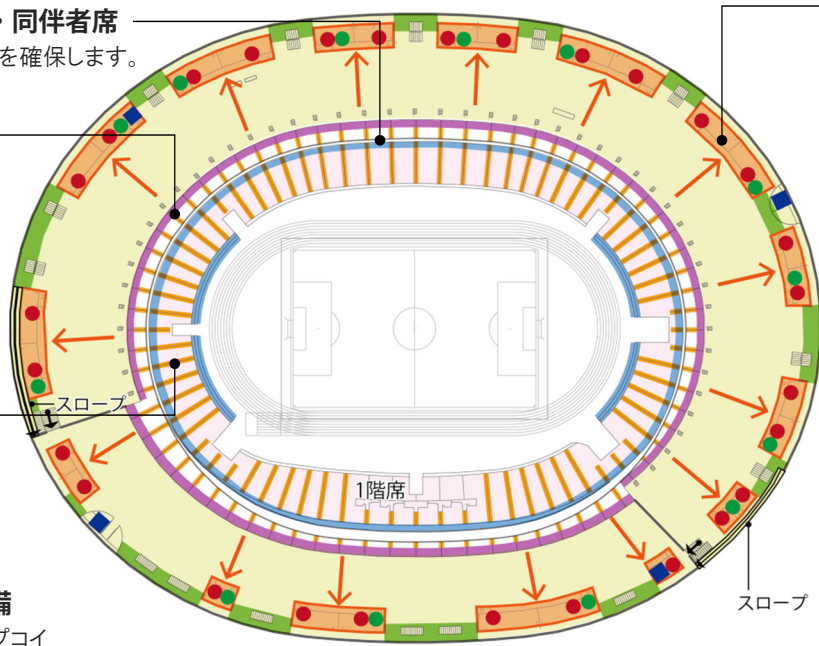
・足腰の弱い人や視・聴覚障がい者に配慮し移動及び避難が容易な、通路に沿った座席を設けます。

#### 4) 多用途活用の集団補聴設備

・聴覚障がい者に配慮し、ループコイル式に加え、FMを使った補聴設備を設けます。視聴覚障がい者や外国人も楽しめる環境を整えます。

#### 5) 静かな環境の休憩室

・にぎやかな環境を避けた配置とし、遮音壁、可動間仕切りを設置します。



| 対応座席のタイプ | オリンピック |       | パラリンピック |       |
|----------|--------|-------|---------|-------|
|          | 座席     | 割合    | 座席      | 割合    |
| 車いす      | 475席   | 0.76% | 745席    | 1.23% |
| ループコイル対応 | 400席   | 0.64% | 400席    | 0.64% |
| ボックス     | 139席   | 0.02% | 223席    | 0.03% |
| FM補聴     | 全席     | 100%  | 全席      | 100%  |

- サービスコア
- マルチユニバーサルスペース
- 障がいに配慮したトイレ
- 一時避難エリア
- 車いす席・同伴者席
- 車いす席・ボックス席
- イージーアクセス席
- エレベーター

#### 6) アメニティを高めるサービスコア

・静養室や祈祷室、ボランティア控室、ベビールーム等、多用途に転用可能なマルチユニバーサルスペースのほか、トイレ・店舗が入ったコアユニットを各ブロックに均等に配置します。

#### 7) 育児環境に配慮したベビールーム

・男性の利用にも考慮し、プライバシーを確実に保てる授乳室とベビールームをそれぞれ整備します。また男子トイレブースにもベビーカーの設置をすすめます。

#### 8) 大型のトイレブース

・体格の大きな人、広いスペースを必要とする人に配慮したトイレを設けます。

#### 9) 多様な障がいに配慮したトイレ

・各サービスコアには多機能トイレのほか、着替え、ベッド付き、ベンチ付き、オストメイト、付添者の入室などさまざまな使い方に配慮したトイレを設置します。仮設席設置時も十分な数のトイレを確保します。

### ② 競技者のベストパフォーマンスを引き出す最高のユニバーサルデザインを実現します

#### 1) 車両動線

・外周部を周回する車両動線と直結した位置に一時駐車スペースを設け、フィールドや競技スペースへ容易にアクセスできるようにします。

#### 2) 各種寸法への配慮

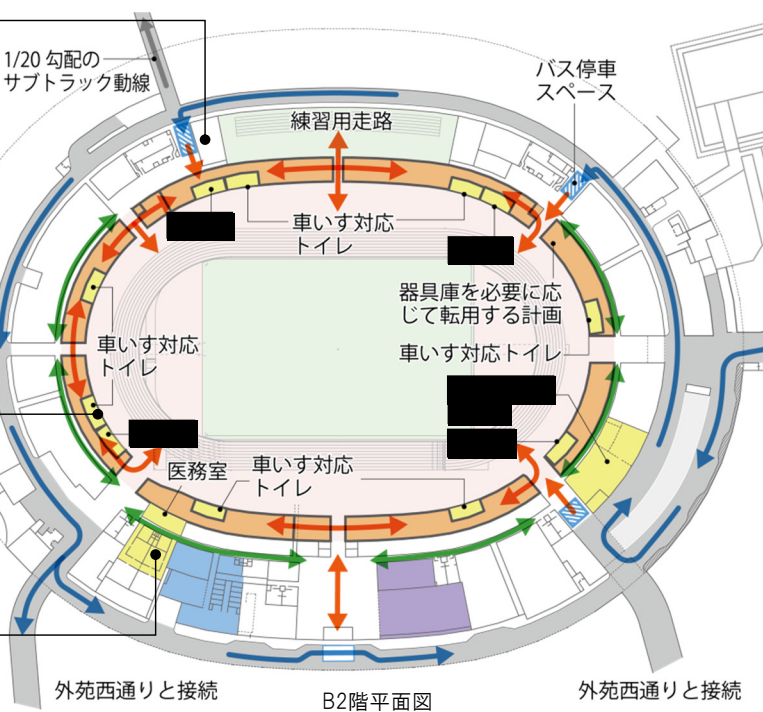
・競技用車いすを押しながら自らも車いすで競技場内を移動する競技者に配慮し、移動空間のみならず、各用途に対して必要十分な寸法設定を行います。

#### 3) ユーティリティスペース

・フィールド周囲に設けられたユーティリティスペースはアスリートにとって自由に使える多目的スペースです。競技用車いすの整備等、競技に臨むさまざまなアクティビティをサポートします。

#### 4) 静養室

・体調管理が難しい障がいのある競技者のために特に配慮した静養室を整備します。



#### 5) シャワーブース・更衣室

・車いす利用者にも利用できるように、パーティション位置の調整ができるよう配慮し更衣室・シャワー・ベンチを設置します。

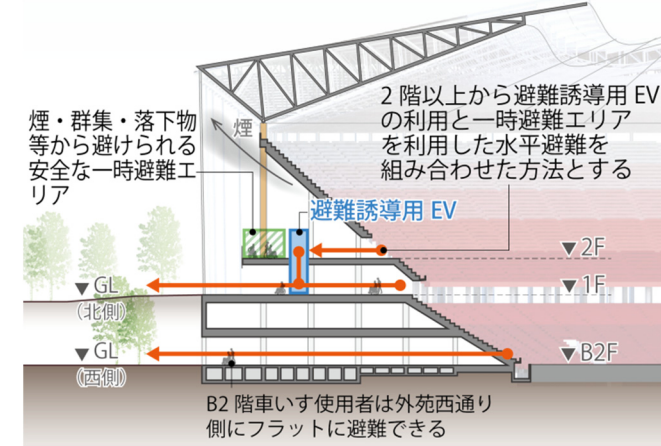
#### 6) 車いす用トイレ

・フィールド・練習走路から利用しやすい位置に配置します。

- 運用動線
- 車両動線
- バス停車スペース
- 競技用車いす調整・整備スペース
- 選手サポート関係諸室
- ボランティア本部
- 記者会見室(メディア)

## 4 安全・安心に、気軽に便利に利用できる、長く愛されるための取り組み

### ① 安全・安心な「避難」を実現します



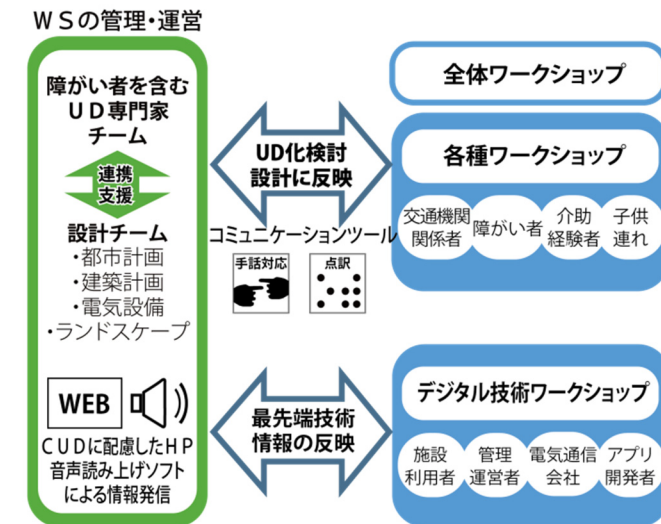
#### 1) 確実な情報伝達

・音声情報に加え、日本最大級の大型映像表示や各所に設置されたデジタルサイネージと連動し、リアルタイムで視覚的な情報伝達を行います。  
・トイレなど狭い場所にいるときでも非常事態の発生を確実に伝達するため、スピーカーやモニターによる情報伝達に加え、フラッシュランプを設置します。

#### 2) 体力差・障がい内容に配慮した安全避難計画

・高齢者・障がい者等の円滑かつ迅速な避難を実現するために一時避難エリアを各階に確保します。  
・2階以上の車椅子席からの避難経路は、2方向避難を確保し、さらに各階専用の避難誘導用EVを設置します。  
・2階と3階をつなぐスロープにより緊急時の水平避難ルートを確認します。

### ② 利用者目線に立ったワークショップ (WS) を開催します



#### 1) 各障がい別のWSおよび相互理解のWS

・障がい者を含むUD専門家チームを構成しWS全体を管理・運営します。  
・障がい者の意見・要望を設計に反映させるため、各障がいごとのUDを深化するWSと、全体WSを開催します。  
・スタジアム全体のスケール感(時間・空間)を理解してもらう工夫が必要なことから、視覚障がい者も理解できる触地図に模した縮尺模型を制作し、WSで活用します。  
・使いやすさ検証のため、トイレ・EV・洗面・案内カウンター等のモックアップを作成し、設計にフィードバックします。  
・避難計画対応はDIG(災害想像ゲーム)で検討を重ねます。

#### 2) デジタル技術WS

・8万人対応のWi-Fiやデジタルサイネージ等のUDへの活用は、2020年では必須と考えています。デジタルWSの開催を通じて、設計チームが責任を持って、多分野にわたるデジタル技術を統合し、デジタルUDの実現を目指します。

### ③ 将来技術も見据えてユニバーサルデザインのさらなる向上を目指します

#### 1) 次世代IT技術の活用によるUDの更なる向上

・デジタル技術WSでは次世代IT技術の活用も視野に入れ、UDのさらなる向上に向けてさまざまな検討を行います。具体的には、来場者・運営者の所有する携帯端末(スマートフォン等)のGPS機能に加え、Wi-Fi/Bluetooth等を用いた屋内測位技術の導入を検討します。現在地把握により、競技場周辺の移動・案内情報はもとより座席や最寄りの各施設(トイレ・売店等)への誘導、災害時の避難経路を提供するシステムの構築を検討します。

#### 2) 「和」の心のおもてなし

・もてなし側の不安も解消するべく、施設管理運営者やボランティアの方とも連携し、心のこもった「おもてなし」が提供しやすい施設づくりを共に検討します。温もりがあり、かつハードとソフトが一体となって調和のとれた「和のUD」の実現を目指します。

#### 3) その他のユニバーサルデザイン

・異なる体格(背丈や体型)を有しているすべての人にとって高い利便性が得られるよう、必要に応じて高さや幅に対して可変性のある器具等の導入を検討します。  
・イスラム教などでの宗教上の慣習に配慮し、男女別「礼拝堂」やハラール食の調理施設等の導入を検討します。  
・身体障害者補助犬法の趣旨に則り犬用トイレの設置など盲導犬だけではなく聴導犬、介助犬に対しても配慮します。  
・屋内外の床材や視覚障がい者用ブロック等は維持管理のしやすい材料・素材とします。

